

## 校長 だ よ り

### ～生徒の素直な心に師の熱い指導それを支えるPTAの力～

平成24年7月3日

校長 與那覇 健勇

「生徒たちが所属している集団に誇りを持つことができているのかどうか教育という勝負の趨勢を決める」と齋藤孝氏は「教育力」という著書のなかで言っています。本校の生徒たちはどうでしょうか。聞くまでもないことだと思います。読高生はどこよりも自分たちの学校、自分たちのクラス、自分たちの部活、自分たちの先生、そして、自分たち自身に誇りを持ち、それらを愛しています。これこそが教育の極みだと思うのです。読高生はいちばん読高が好きなんです。そのことの象徴が校門わきに掲げてある「読高プライド」なのです。

私の教育目標は唯一つです。三年前本校に赴任した際の最初の学校経営方針でも言いました。「数値目標はありません。生徒たち一人一人が「読高に来てよかった」と思い、また、親が「読高に行かせて良かった」と今までもこれからもそう思ってもらえるような学校にしたい。それだけです」と。

さて、今日の読高はどんな学校になっているのでしょうか。先生方の生徒を思う力がどこの学校よりも群を抜いて素晴らしいこと。生徒を伸ばしたいと思う指導力が半端じゃないこと。集団指導ではついていけない生徒に対する入念な個別指導に労を惜しまないこと。土・日もなく一年中、部活動の指導に明け暮れ、生徒に体力と気力をつけ、集団生活でのマナーや規律といった人間として最も大切なことを教え続けています。いったい、いつ自分の時間や家族の時間をつくれるのと思うくらいの先生が大半です。そういう学校、外にはありません。だから、色々なところで伸びているのです。

先ごろ、県の達成度テストにおいて、高校入学当時の成績を最も伸ばしている学校のナンバーワンの評価を受けているんです。最近では進路面について他校からも視察に来るようになりました。先生方の頑張りのお陰です。本校の生徒は実に素直でいい子たちですから教師の指導をスポンジのように吸収する力があるのです。だから伸びるんです。校長の仕事は教師と生徒が頑張りすぎて体を壊さないようそれらを見守り、全力でその頑張りを支え、いい気持で仕事ができ、モチベーションをいい状態に保ってもらうことです。

PTAのみなさん。特に今年の1年生の学級評議員は希望者が多く選ぶのに少しも時間がかからなかったと聞いています。ありがとうございます。いまでも十分いい学校ですがもう少し欲張ってもっといい学校にしていきたいと思います。生徒の夢実現に向けて、全面的バックアップをお願いいたします。手作りのお弁当もお願いしますよ。